

# 千葉大学 医学部附属病院 小児外科



## 【新年度挨拶】

千葉大学小児外科通信第2号をお届けいたします。小児外科の扱う疾患は、表1のように多岐にわたります。今回は、症状の視点から「腹痛」をテーマとしました。

表1 小児外科の対象疾患

一般・腹部外科疾患	鼠径ヘルニア、陰嚢水腫、臍ヘルニア、胃食道逆流症、肥厚性幽門狭窄症、胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症、ヒルシュスプルング病、炎症性腸疾患、頸部瘻孔性疾患、リンパ管腫、肛門周囲膿瘍
呼吸器外科疾患	肺嚢胞、縦隔腫瘍
泌尿器疾患	停留精巣、包茎、膀胱尿管逆流症、水腎症
腫瘍性疾患	神経芽腫、ウィルムス腫瘍、肝芽腫、横紋筋肉腫、胚細胞腫瘍
新生児外科疾患	食道閉鎖症、横隔膜ヘルニア、腸閉鎖症、鎖肛
救急外科疾患	急性腹症(虫垂炎、腸閉塞、腸重積、腸軸捻転)、異物の誤嚥・誤飲、胸腹部外傷、熱傷

腹痛は小児の日常診療で非常によく出会う訴えの一つです。その原因には、外科的処置に踏み切らないと生命の危険に及ぶ疾患と、経過をみてもよいものがあります。腹痛を訴える患児が受診したときには、速やかに診断を下し的確な治療を行うことが求められます。しかし、それは容易ではありません。小児は単に成人を小さくしたものではないことはよく言われます。腹痛を訴えるような際には、これらの小児の特徴が顕著にみられることが多いのが事実です。小児疾患の特徴として ①症状が急変しやすい。②年少児ほど典型的な症状を呈し難い。③年少児の多くは言葉で訴えられない。④診察・検査に非協力的で情報が得られ難い。⑤年齢により発症する疾患に特徴がある。などがあげられます。私たち小児外科医も確定診断をつけられないまま手術に至ることがあります。重要なことは、外科的処置を必要とするものか否かを見極めることです。そして、この判断は、私たち小児外科医の重要な責務です。従って先生方には、外科的疾患を少しでも疑われたなら、お気軽にご紹介いただければ24時間いつでもお受けいたします。

平成25年度も先生方と共に、更なる小児医療の質の向上に努めていきたいと思っております。先生方のご指導、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

(科長 吉田英生)

## 【人事異動のお知らせ】

4月より新たなメンバーが加わりましたのでお知らせします。

講師 照井慶太(平成10年卒)

医員 小林真史(平成21年卒)

シニアレジデント 秦佳孝(平成23年卒)

シニアレジデント 笈田諭(平成23年卒)

大学院生 小原由紀子(平成20年卒)

なお、菱木知郎(平成5年卒)先生、小松秀吾(平成14年卒)先生は千葉県こども病院へ、原田和明(平成21年卒)先生は千葉県立佐原病院へそれぞれ異動となりました。

## 新スタッフの紹介

**照井慶太(平成10年 千葉大学卒)**

平成25年4月1日付で小児外科講師を拝命致しました。小児外科学の更なる研鑽を積むと共に、研修医・学生さんへの指導をより一層充実させて参りたいと存じます。重責を感じておりますが、職務をひとつずつ全うしながら微力を尽くして参りたいと存じます。今後ともご指導、ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

**小林真史(平成21年 千葉大学卒)**

都立小児総合医療センターでの1年間の勤務を終え、再び千葉大学小児外科へ戻って参りました。これまで先輩方にご指導頂いた事を少しでも還元していけるよう、目の前の子どもたちひとりひとりに対して自分が出来ることに全力で取り組んでいきたいと存じます。そして後輩や研修医・学生の皆様に小児外科のやりがいを伝えられるよう、自分自身も楽しんで子どもたちに関わっていけたら嬉しいです。まだまだ未熟な所ばかりではありますが、今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。



真剣なまなざしのナース

## 新入医局員の紹介

4月より、笈田諭先生と秦佳孝先生が、初期研修を終えて千葉大学小児外科に入局されました。フレッシュマンを迎えることはとてもうれしいことです。小児医療に携わる同志として、お互い切磋琢磨していきたいと思っております。

**笈田諭(平成23年 千葉大学卒)**

本年度より小児外科に入局いたしました笈田と申します。はじめはわからないことだらけで多大なるご迷惑をおかけすると思っておりますが、皆様の力になれる様、ひいては子供たちの力になれる様尽力して参りたいと思っておりますので、御指導御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

**秦佳孝(平成23年 浜松医科大学卒)**

この度、2年間の初期研修を終えて、4月より千葉大学小児外科のシニアレジデントとなりました、秦佳孝(しんの よしたか)です。昨年10月より既に小児外科での研修をスタートしておりましたが、晴れて正真正銘、千葉大小児外科の一員となれたことに誇りを感じております。子どもたちの笑顔に少しでも貢献できるよう、精一杯頑張りますのでよろしくお願い申し上げます。



小児外科で臨床実習中の医学生。

小児外科医の卵の卵？

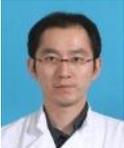
期待してます！

【ご紹介いただく先生方へ・外来のご案内】

月	火	水	木	金
齋藤 中田 菱木(腫瘍)	光永 (中田)	手術日	吉田 照井	手術日

・新患外来日は月・火・木の午前中です。水曜・金曜は手術日ですが、連絡をいただければ対応しております。また緊急の場合は夜間休日を含めた24時間対応をしておりますので、お気軽にご相談ください。

・連絡は代表電話(043-222-7171)より時間内(平日9:00-17:00)は小児外科外来、時間外は救急外来までお願いいたします。

	専門領域	資格
 吉田英生(教授)	新生児外科 外科代謝栄養 消化管機能不全疾患 小児固形腫瘍	日本小児外科学会評議員 日本外科学会指導医 日本小児外科学会指導医 日本小児血液・がん学会評議員 日本外科代謝栄養学会評議員
 齋藤武(講師)	肝胆道系疾患 肝移植 炎症性腸疾患 消化管機能 腹腔鏡下手術	日本小児外科学会評議員 日本小児外科学会指導医 外科専門医 小児外科専門医
 照井慶太(講師)	肝胆道系疾患 新生児外科 小児泌尿器疾患	日本小児外科学会評議員 外科専門医 小児外科専門医
 光永哲也(助教)	新生児外科 腹腔鏡下手術 消化管内視鏡 小児固形腫瘍	日本小児外科学会評議員 外科専門医 小児外科専門医 がん治療認定医
 中田光政(助教)	外科代謝栄養 新生児外科 腹腔鏡下手術 小児固形腫瘍	日本小児外科学会評議員 外科専門医 小児外科専門医



ナースステーション



プレイルーム



NICU での重症新生児の手術



タリーズ

# 小児の腹痛 (手術症例から振り返る)

腹痛は、小児の日常診療で遭遇するもっとも一般的な症状の一つですが、原因は心因性のものから感染症、外科的なものまで多岐にわたります。絞扼性イレウスなど一分一秒を争う緊急手術が必要な場合もあり、幅広い鑑別疾患のなかから適切な診断と治療が必要とされます。診断のためには、しっかりとした病歴聴取

と身体所見の把握が重要です。よく文献等で引用される診断アルゴリズム(表2)、年齢別原因疾患(表4)を示しますが、やはり鑑別疾患が多岐にわたるため、日常の一次診療ではなかなか応用しにくいかもしれません。

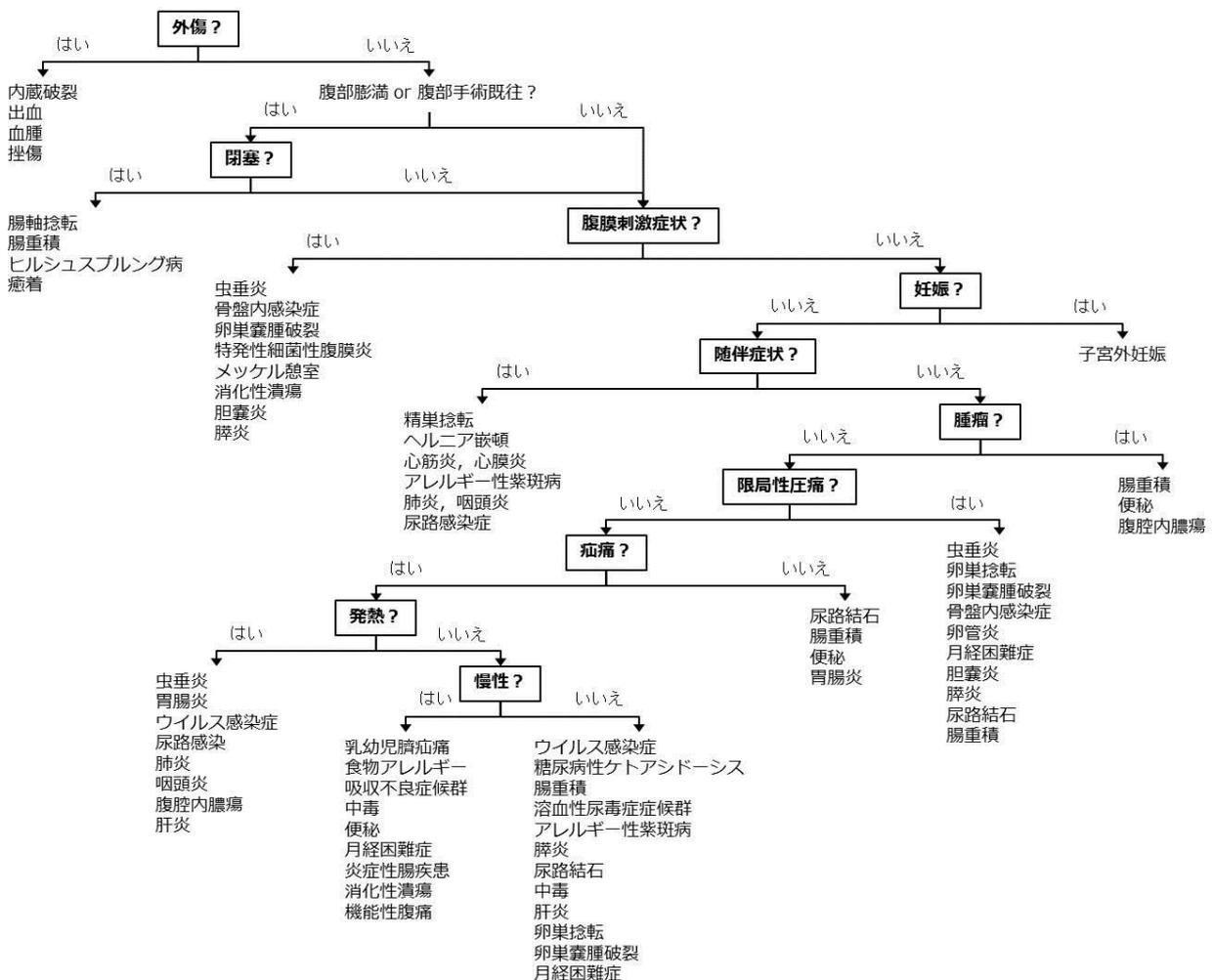


表2 腹痛の診断アルゴリズム<sup>1)</sup>

そこで視点を変えて、実際に当科で開腹手術を行った症例のなかから、主訴が腹痛であったものを後方視的にまとめてみました。(表3)

急性虫垂炎は原因疾患のなかではやはり最も多く、6割近くを占めました。

イレウスは17例でした。このうち8例は手術既往のある癒着性のものでしたが、残りの9例は手術既往

のない絞扼性のもので、全例緊急手術となっています。原因は腸回転異常症、腸間膜裂孔ヘルニア、臍腸管遺残(メッケル憩室)などでした。

表3 腹痛が主訴で開腹手術を行った症例の最終診断(2010年から2012年)

疾患	症例数(例)
急性虫垂炎	100
イレウス	17
先天性胆道拡張症	10
悪性固形腫瘍	10
腸重積	9
卵巣奇形種茎捻転	8
炎症性腸疾患	5
消化管穿孔(外傷、異物など)	3
胆嚢結石	2
結腸憩室炎	2
精巣捻転	2
尿管管遺残	2
その他	5
計	175

先天性胆道拡張症は古典的には黄疸、腹部腫瘤、腹痛にて発症するとされますが、実際には腹痛や嘔吐などの胃腸炎症状(膵液の胆道逆流による膵炎様症状)で発症する例がほとんどです。

腸重積は集計では9例と少なくなりましたが、ご紹介いただいた症例のうち大半(43例)は非観血的整復術(高圧浣腸)で整復可能だったため手術例には含まれておりません。実際には外科的対応が必要となる腹痛の原因疾患としては、急性虫垂炎に続いて多いものと考えられます。

卵巣奇形種の茎捻転は8例ありました。発症年齢は幼児期から思春期まで幅広く、全例卵巣温存ためには緊急手術が必要となります。腹痛を訴える女児の鑑別疾患として常に念頭におく必要があります。また男児では、精巣捻転の主訴が下腹部痛であるという症例も散見されますので、鼠径ヘルニアなどを見逃さないためにも、外性器の診察は必ず行うべきです。

なお、肝損傷や脾損傷、腎損傷などの外傷はほとんどが保存的に治療可能であるため、腹腔内臓器損傷のうち実際に手術が必要なのはほぼ消化管穿孔に限られます。

これらの原因疾患のうち、炎症性腸疾患以外は腹部単純X線写真と超音波検査でほぼ初期診断を行うことができます。

腹痛を訴える小児の原因疾患のうち、最も頻度が高いのはウイルス性の胃腸炎か便秘と考えられます。しかし、このように診断される症例のなかに、外科的処置が必要な上記の疾患がかくれていることがあります。小児の一次外来診察においては、多くの患児を診察、診断することが要求されます。その中で外科的処置が必要な症例を取りこぼしなく判断することは難しい場面もあるかと存じます。当科では、小児腹部救急疾患に対して24時間体制で対応しております。いつもと違う訴え、少しでも気になる症状、腹部所見を認める症例がありましたら、軽症例、疑い症例を問わずお気軽にご紹介ください。責任をもって診断、治療にあたらせていただきます。

### 【急性腹症】

急性腹症とは、一般に激しい腹痛があり、緊急手術や処置の適応を早急に判断することが求められる症候です。

- ① 激しい腹痛、激しい号泣が続く。
- ② 前傾姿勢をとる。体動が少なく動こうとしない。
- ③ 激しい嘔吐、胆汁性嘔吐。
- ④ 顔面蒼白、苦悶様顔貌、冷汗、ショック状態。
- ⑤ 吐血、下血を伴う。
- ⑥ 急激な腹部膨満がある。
- ⑦ 反跳痛や筋性防御などの腹膜刺激症状がある。

表4 腹痛の年齢別原因疾患<sup>2)</sup>

	<2歳	2-5歳	6-12歳	>12歳
Common	乳幼児臍疝痛 胃食道逆流症 胃腸炎 ウイルス感染症	胃腸炎 尿路感染症 外傷 急性虫垂炎 肺炎、喘息 ウイルス感染症 便秘	胃腸炎 外傷 急性虫垂炎 尿路感染症 機能的腹痛 便秘 ウイルス感染症	胃腸炎 胃食道逆流症 外傷 便秘 急性虫垂炎 骨盤内感染症 尿路感染症 肺炎、喘息 ウイルス感染症
Less common	外傷 腸重積 鼠径ヘルニア陥頓 ミルクアレルギー	メッケル憩室 アレルギー性紫斑病 中毒 腸重積症 ネフローゼ症候群	肺炎、喘息 炎症性腸疾患 消化性潰瘍 胆嚢炎、膵炎 糖尿病 膠原血管病 精巣捻転	子宮外妊娠 精巣捻転 卵巣捻転 尿路結石 消化性潰瘍 肝炎 胆嚢炎、膵炎 膠原血管病 炎症性腸疾患 中毒
Very uncommon or rare	急性虫垂炎 腸軸捻転 悪性腫瘍 中毒 吸収不良症候群	鼠径ヘルニア陥頓 悪性腫瘍 溶血性尿毒症症候群 リウマチ 肝炎 炎症性腸疾患 先天性胆道拡張症 溶血性貧血 糖尿病	リウマチ 中毒 卵巣捻転 腸重積	リウマチ 腫瘍 腹腔内膿瘍

1,2) Neuman MI: Pain-Abdomen. In Fleisher GR, Ledwig S (ed): Textbook of pediatric emergency medicine (6th ed). pp421-428, Lippincott Williams & Wilkins, Philadelphia, 2010. より一部改変

編集後記

近隣の小児科の先生方に、もっと我々を知っていただきたいということで作り始めたこの小児外科通信です。当初は季刊で年4回くらい発行できればいいなと考えておりましたが、編集担当の私が頸椎椎間板ヘルニアで手術をうけるという事件があり、第2号の発行が遅れてしまいました。申し訳ありません。今後も定期的に小児外科に関する有益な情報をお届けしたいと考えております。特集を希望される内容がありましたら、お知らせいただければ幸いです。(編集担当：光永哲也)



夢と希望、明日へつなぐ医療

～私たちは限りない未来を守るお手伝いをしています～

<http://www.pedsurg-chiba.com>

[住所] 〒260-8677

千葉市中央区亥鼻 1-8-1

[Tel] 043 (222) 7171

[Fax] 043 (226) 2366

千葉大学医学部附属病院小児外科  
千葉大学大学院医学研究院小児外科学